

## ●浜の話題

- 6月16日、17日、および23日、三和漁協城ヶ島支所および城ヶ島ダイビングセンターで構成される「城ヶ島地域藻場保全活動組織」は、藻場減少の一因となっている植食性魚アイゴの除去活動を実施しました。この活動は産卵期のアイゴを捕獲してその増殖を抑制することが目的で、地先漁場に刺網を一斉に仕掛けたところ、尾叉長30cm前後のアイゴが3日間で合計348尾、196.4kg捕獲されました。捕獲されたアイゴは雌雄とも生殖腺が発達した繁殖間近の個体が多く、参加した漁業者は皆この取組みの効果を実感するとともに、藻場の回復を願っていました。



捕獲されたアイゴの生殖腺（左：♀、右：♂）

- 6月16日、長井町漁協所属のトラフグはえ縄漁業者からなる「福会（ふくかい）」のメンバー9名が当センターを訪問しました。当日は当センター栽培推進部の研究員2名からトラフグの種苗生産状況や漁獲動向について、（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所の鈴木主任研究員から漁業者を対象としたアンケート調査結果について、それぞれ報告がありました。参加した漁業者からは「新型コロナウイルスの影響で魚価が安くなっているが、資源管理を徹底しトラフグ資源を増やしていこう」という声がありました。



研究成果を熱心に聴く漁業者

- 6月16日、腰越漁協は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、ヒラメの種苗放流を実施しました。当日は（公財）県栽培漁業協会より購入した平均全長84mmのヒラメ種苗15,000尾を、放流に適した場所である地先の水深5m前後の砂底域に放流しました。ヒラメは継続的な種苗放流による資源増大の着実な効果があがっており、参加した漁業者も今後の漁模様に期待していました。



活魚トラックからヒラメ種苗をおろす漁業者



放流した活きのよいヒラメ種苗

○ 6月18日、横須賀市東部漁協は、養殖用のマガキ種苗を宮城県から入手しました。マガキは初夏に産卵し、孵化した幼生はしばらく浮遊生活を送ったのち、岩場等に付着して成長していきます。マガキの養殖は、ホタテガイ貝殻でできたコレクターに付着させた幼生を種苗としており、広島県や宮城県等の有名産地の種苗が多く流通しています。同漁協所属のマガキ養殖に取り組む漁業者は、より安定した種苗確保のため採苗試験も行っており、将来的には横須賀生まれ横須賀育ちのマガキを養殖できることが期待されます。



コレクターに付着したマガキ種苗

○ 6月18日、小田原市漁協は同漁協刺網部会、（公財）相模湾水産振興事業団および（公財）県栽培漁業協会との合同でヒラメの種苗放流を行いました。参加した刺網漁業者は、平均全長96mmのヒラメ種苗50,000尾を小田原地先に放流しました。



放流したヒラメ種苗



種苗放流の様子

- 6月22日、葉山町漁協所属漁業者は（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受け、ヒラメの種苗放流を実施しました。当日は（公財）栽培漁業協会より購入した平均全長84mmのヒラメ種苗5,000尾（漁協2,000尾、事業団3,000尾）を、地先の森戸および一色海岸に放流しました。葉山では刺網によりヒラメが安定的に漁獲されており、漁業者は今後の漁模様に期待していました。

## ●お知らせ

- 7月1日、県水産課は「おうちでも魚を食べよう！水産物ネット販売まとめサイト」をHPで公開しました。今春から続く新型コロナウイルス感染症の影響により水産物の流通が低調な中、県内の漁業者が行うネット通信販売等をまとめ、その販売を促進するため開設されたサイトです。店によって注文方法は異なりますが、漁港や店舗に直接出向かなくても神奈川の様々な水産物が入手できますので、皆様ご覧の上ぜひ注文してみてください。

水産物ネット販売まとめサイト URL：

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/cnt/f480063/matomesaito.html>